

南関東防衛



南関東防衛局広報誌

令和5年
35号

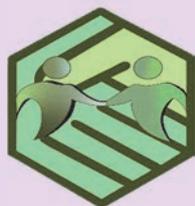


ふれあい動物施設
「アニタッチみなとみらい」にて
令和5年の干支 うさぎ

CONTENTS



- 1 井野防衛副大臣企業視察
- 2 令和4年版 防衛白書刊行
- 3 沖縄県道104号線越え実弾射撃訓練の分散・実施
- 4 防衛問題セミナー開催
- 5 富士五湖広域行政事務組合 消防庁舎竣工
- 6 浜松基地エアフェスタ
- 7 永年勤続者・賞詞表彰式
- 8 在日米軍従業員永年勤続者表彰



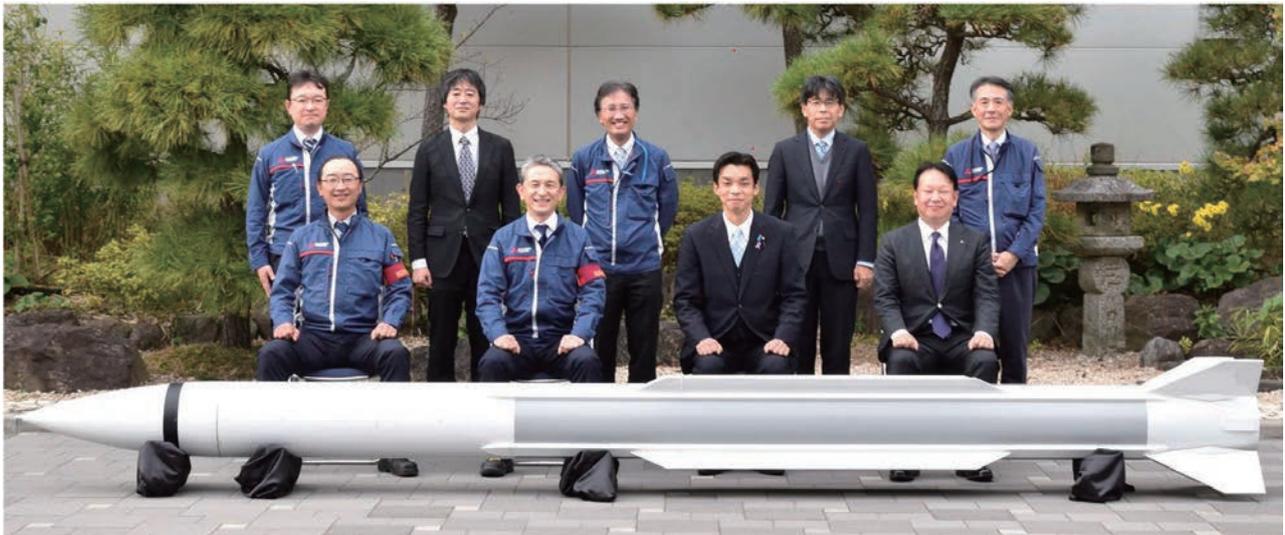
井野防衛副大臣企業視察

令和4年11月14日（月）、井野防衛副大臣が神奈川県鎌倉市の三菱電機株式会社鎌倉製作所を視察されました。

防衛装備庁等からの随行者のほか、当局からは山野局長以下3名が随行者し、鎌倉製作所の若菜所長から施設の概要説明を受けた後、展示室において防衛装備品を始めとする各種の製品についての説明を受けられました。また、03式中距離地对空誘導弾（改）の製造現場及びXバンド通信衛星の製造現場などを実地に視察され、防衛製品等に関する理解を深められました。

このほか、同社との意見交換により、会社側の問題認識等の共有が図られました。

この視察は、防衛産業の主要企業の現状等について理解を深めるために行われたもので、我が国の防衛力の抜本的強化に必要な今後の取り組みに活かされることが期待されます。



前列中央右 井野防衛副大臣、後列右から2人目 山野南関東防衛局長



施設説明を受ける井野副大臣（一番左）



衛星アンテナを持ち上げる井野副大臣（右）

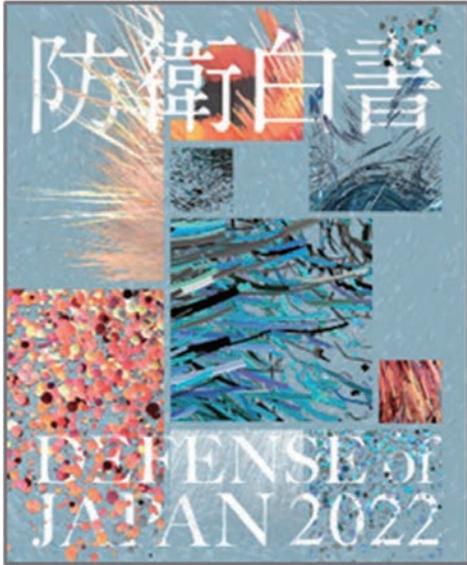


03式中距離地对空誘導弾（改）の説明



令和4年版 防衛白書刊行

我が国の防衛の現状と課題及びその取組について、できる限り多くの方々に周知を図り、国民の皆様にご理解を深めていただくことを目的として、毎年、防衛白書を刊行しています。



令和4年版防衛白書は、ロシアによるウクライナ侵略や米中を中心とした戦略的競争の一層の顕在化など、わが国が直面する安全保障上の課題について解説するとともに、このような厳しい安全保障下での防衛省・自衛隊の防衛力強化のための取組等についてご紹介しています。

表紙のデザインにはAIアートを採用しています。AI（人工知能）などの技術が安全保障のあり方を変える時代において、こうした先端技術も活用し、日本を守り抜いていくという決意を表現しています。

防衛白書は、書籍として販売される他、防衛省ホームページにおける無料でのダウンロードや閲覧、民間電子書籍市場での無料配信も実施しています。

また、防衛白書に馴染みがない方にも広く防衛省・自衛隊の活動を理解していただくため、「はじめての防衛白書」も防衛省ホームページで公開しています。



「はじめての防衛白書」QRコード

南関東防衛局では、地方公共団体や地域の皆様方に防衛省の各種政策や自衛隊の諸活動についてご理解を深めていただく一助となるよう、また、防衛省・自衛隊と地方公共団体等との連携強化を図るため、管轄する神奈川、静岡、山梨の各自衛隊協力本部や関係部隊等と協力し、管内104の地方公共団体等に防衛白書の説明を行っています。



神奈川県知事(4.10.24)



静岡県知事(4.11.4)



山梨県副知事(4.11.30)

沖縄県道104号線越え実弾射撃訓練の分散・実施



沖縄県キャンプ・ハンセンでの米軍による沖縄県道104号線越え155ミリ榴弾砲による実弾射撃訓練は、県道104号線をまたぐ形で射撃が行われるため、県道を封鎖して実施されていました。

平成8年8月、日米合同委員会において、沖縄県の負担軽減を図るなどの観点から、この訓練を本土の5演習場で分散・実施することが合意され、平成9年度から、本土5ヶ所の自衛隊演習場（矢臼別、王城寺原、東富士、北富士及び日出生台）で訓練が実施されています。

南関東防衛局は、管内に所在する北富士演習場及び東富士演習場における訓練時には現地対策本部を設置し、訓練の円滑な実施のため24時間体制で支援を行っています。

本年8月から9月にかけて、静岡県に所在する東富士演習場で本訓練が実施されました（準備期間等を含む）。



参加人数は約330名、車両約70両、砲6門による中隊規模による実弾射撃訓練が、8月28日から9月4日の間に行われました。

今回18回目となる東富士演習場における訓練においても、地元自治体への説明・情報提供はもとより、米海兵隊に対する訓練実施のための支援、陸上自衛隊や警察等関係機関との調整、演習場周辺の警備など、訓練の円滑な実施のための総合的な支援を実施しました。



中央右：ガメス大尉、糸田係員
アンタラン大尉、ブラック女史
左：谷本本部長、飯田副本部長



現地対策本部開所にあたり、現地対策本部の看板を掛ける谷本本部長、木本副本部長



現地対策本部の局職員、陸上自衛隊支援部隊、海兵隊訓練部隊の打ち合わせの様子

防衛問題セミナー開催

近年、人口減少や少子高齢化が急速に進み、社会構造が大きく変化する中で、性別、年代、時間的制約の有無にかかわらず、あらゆる人が活躍できるような職場環境を整備することが求められています。防衛省・自衛隊は、意欲と能力ある女性が幅広い分野にチャレンジできる道を拓いており、多くの女性職員が安全保障に関連する様々な場面で活躍しています。

当局では、令和4年11月5日（土）に「安全保障分野で活躍する女性たち」をテーマに防衛研究所戦史研究センター主任研究官の吉田ゆかり1等空佐と第7艦隊司令部海上自衛隊自衛艦隊連絡官マリア・カトリーナ・アブレン少佐を講師に迎え、オンラインセミナーを開催しました。



吉田1等空佐（左）と増野地方調整課長（右）

第1部では、東日本大震災後の航空保安管制群松島管制隊長、統合幕僚監部運用部運用第2課災害派遣班長、航空幕僚監部広報室長など幅広い経験を持つ吉田1佐による、「自衛隊にも必要なジェンダー視点と多様性～これまでの経験を踏まえて～」と題した講演は行われ、引き続き、視聴者から事前に寄せられた質問をもとにしたインタビューが行われました。

第2部では、米第7艦隊所属で海上自衛隊自衛艦隊司令部連絡官として勤務しているアブレン少佐より、「軍務における多様性が、国、地域社会、そして自己を強化することへの考察」と題した講演が日本語で行われ、また、その後の質疑応答では、日米両国での勤務・生活経験から見た、日本や自衛隊に対する思いを伺い知ることができました。



アブレン少佐

今回のセミナーについて視聴者からは、「「多様性」「ダイバーシティ」という表現はよく耳にしますが、単に様々な人が集まっているだけでなく、その個人が認められ、活躍し、組織や社会に貢献している状態であることだと、今回のセミナーを通じて強く感じました。」「今回のテーマ(ジェンダー)は、生きていく上で必ず身近に感じる内容」などの感想やコメントが寄せられました。

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、昨年度に引き続き、今回も事前収録した講演等をオンライン配信し、アーカイブ配信期間を設けました。視聴者からは、「時間を気にせず、都合の良い時に視聴できたので良かった」という意見をいただきました。

今後も防衛省の諸施策や取組及び自衛隊の活動等について、より多くの国民の皆様にご理解を深めていただけるよう、様々なテーマで、開催方法を工夫して実施してまいります。

富士五湖広域行政事務組合 消防庁舎竣工

★ 富士五湖広域行政事務組合の新庁舎竣工式典が開催されました

令和4年10月19日（水）、防衛省補助事業（民生安定助成事業）により山梨県富士吉田市内に整備された「富士五湖広域行政事務組合 新消防庁舎」の竣工式典が開催されました。



屋上ヘリポートでの訓練展示

式典には、同組合の堀内茂代表理事（富士吉田市長）をはじめ関係者のほか、当局からは玉榮局次長が出席し、来賓、招待者約150人が施設の完成を祝いました。本施設は、当省の補助事業により整備費の一部を助成したもので、北富士演習場の周辺地域における関係市村等の消防活動の円滑化に資するとともに、地域防災活動の拠点となるものです。

新庁舎は、近い将来に発生が危惧される東海地震や東南海・南海地震にも耐えうる構造となっており、緊急車両車庫内の暖房機能と同車庫前の融雪には、ペレットボイラーを導入し、ランニングコストの低減や自然環境に配慮した施設となっています。さらに、屋上にはヘリポートを設置し、ドクターヘリによる3次病院への緊急搬送等が可能となっています。



新消防庁舎の外観

※ ペレットボイラーとは、間伐材などを粉砕し、圧縮成型した燃料「木質ペレット」を直接燃焼させることにより、温水、温風、蒸気を使用目的に応じて取り出すことができる熱交換器です。

燃料には、富士北麓地域の間伐材を原料とした木質ペレットを使用しています。

浜松基地エアフェスタ

★ 空の妙技 3年ぶり！

令和4年10月23日（日）、静岡県浜松市の航空自衛隊浜松基地で、「エアフェスタ2022」が新型コロナウイルス禍の影響により3年ぶりに開催され、航空機ファンなど県内外から約5万人（同基地発表）の来場者が詰めかけました。

来場者は、会場の上空を飛行するF-15戦闘機やアクロバット飛行隊「ブルーインパルス」の曲技飛行を見学したり、展示航空機の撮影などを楽しみました。ブルーインパルスの5機は白いスモークを噴出しながら基地上空に現れ、背面飛行や至近距離での交差など高度な操作技術と統制のとれた編隊飛行を披露しました。青空に巨大なハートや星の形が描かれると、来場者からは大きな拍手が起こりました。

地上では、練習機T-4やT-400のコックピットの展示などが子供たちの人気を集めていました。



ブルーインパルスの曲技飛行

永年勤続者・賞詞表彰式

令和4年11月1日（火）、当局において自衛隊記念日式典が挙行されました。永年勤続者表彰では、山野局長から防衛大臣のお言葉の代読があり、防衛省勤続25年となる7名の職員に対し表彰状が授与されました。

また、賞詞授与式では、当局がこの1年間で行った基地周辺に所在する地方公共団体や地域住民等との調整、装備品の円滑な調達、在日米軍施設の返還業務等の幅広い業務について著しい功績があった職員3名に対し、第3級賞詞が授与されました。



永年勤続表彰者との記念撮影



第3級賞詞表彰者との記念撮影

在日米軍従業員永年勤続者表彰

在日米軍従業員に対する永年勤続者表彰は、横須賀海軍施設、厚木海軍飛行場、キャンプ座間、相模総合補給廠、キャンプ富士等、南関東防衛局管内の在日米軍施設で勤務されている在日米軍従業員のうち、勤続期間が10年、20年、30年及び40年に達した方々の永年の功労を称えるため、毎年10月、日米共催で実施しているものです。

今年度は、10年勤続者163名、20年勤続者198名、30年勤続者299名、40年勤続者57名の合計717名の方々が受賞の栄に浴されました。

新型コロナウイルス感染症の発生状況を踏まえ、残念ながら、昨年度に引き続き日米共催の式典は開催を見合わせる事となりましたが、被表彰者の方々へは職場の米軍監督者等から表彰状及び記念品が授与され、永年の在日米軍への貢献に対する謝意が伝えられました。



被表彰者への表彰状及び記念品の授与（キャンプ富士）



南 関 東 防 衛 局 職 員 採 用 案 内

【 2 0 2 4 年 4 月 新 規 採 用 】

～南関東で地域に根ざした防衛行政を担ってみませんか～

地方防衛局では自衛隊及び在日米軍が使用する防衛施設の整備・管理、防衛施設周辺住民の生活福祉向上、周辺地域の皆さんと在日米軍との交流行事の実施等、幅広い業務を行い、周辺地域の皆さんと自衛隊及び在日米軍との架け橋となっています。

2023年度国家公務員一般職試験を受験される方、ぜひ私たちとともに架け橋の一部となって防衛行政を支えていきましょう。

○ 大 卒 程 度 試 験

行 政 職
【 試 験 区 分 】
行 政

技 術 職
【 試 験 区 分 】
デ ジ タ ル ・ 電 気 ・ 電 子
機 械
土 木 建 築



自衛隊施設の
周辺地域の皆さん
(自治体・地域住民)



○ 高 卒 者 試 験

事 務 職
【 試 験 区 分 】
事 務

技 術 職
【 試 験 区 分 】
技 術

理解・協力

理解・協力

地方防衛局

自衛隊

在日米軍

連携・協力



防衛省HPの採用情報で業務説明会の開催案内を順次掲載しますので、ご確認の上、ぜひご参加ください！

採用情報は
こちらから



⇒お問い合わせ先：防衛省 南関東防衛局 総務部総務課人事係
TEL：045-211-7133